

私は夢を追いかける女…ともだちは安らぎを求めた人…でも 人はみな一人では生きていけない……



Oh, Friends ガールフレンド



サイクロップス・フィルム
 クローティア・ウエイル作品
 (ガール・フレンド)
 主演/メラニー・メイロン
 アニタ・スキナー
 イーライ・ウォラック
 クリストファー・ゲスト
 ボブ・バラバン
 ジナ・ロジャク/アミイ・ライト
 ビバカ・リンドフォース
 マイク・ケリン
 監督・製作/クローティア・ウエイル
 共同製作/ジャン・サンダース
 脚本/ビッキー・ボロン
 原作/ビッキー・ボロン
 クローティア・ウエイル
 音楽/マイケル・スモール
 ワーナー・ブラザース映画配給
 W A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY



ガールフレンド

girl friends

■キャスト■

メラニー・メイロン……スーザン
 アニタ・スキナー……アン
 イーライ・ウォラック……ゴールド

■スタッフ■

製作・監督……クローディア・ウェイル
 脚本……ピッキー・ポロン
 音楽……マイケル・スモール

若く創造的なニューヨークの映画人グループが、資金難に悩みながら3年という年月と若々しい情熱のすべてをかけて完成した初めての劇映画が、カンヌを初めとする各映画祭で注目を集め、アメリカで公開されるや男女を問わず広範な観客層の支持を受けて大ヒットを記録した。「ガールフレンド」の成功は、アメリカ映画が確実に新しい時代を迎えたことを示す一つの画期的な事件である。

●「ニューヨーク・マガジン」 モーリー・ハスケル

メラニー・メイロンはロマンティックで、われわれがセックスアピールと呼ぶものが今やいかに定義し難いものであるか、しかもそれが映画のいかに大きな要素であるかを実証して見せている。

●コスモポリタン

メラニー・メイロンは暖かく、おかしく、人間臭く、そして可愛い。

●「CBS-TV/NBC-TV」デービッド・シーハン

「ガールフレンド」はあまりにも生き生きし、愛と感情がこもった映画なので、見た者はその感動を家に持ち帰らずにはいられない。

*ストーリー (作家 万里村ゆき子)

ニューヨーク。

かけ出しの女流カメラマン、スーザン・ウェイnbrラットが、ルームメートのアン・マンローの寝姿にカメラを向けている。

ごく小さなネグリジエで横たわる、アン。Tシャツにショーツだけの、スーザン。

女同志の、気楽な時間。未来を夢みて生きる、まだ若い二人のマンハッタン朝である。

エレベーターもないおぼろアパートを一步出れば、二人ともいやおうなしに生き馬の目を抜く生存競争に加わらなくやならないのだから、この朝のひとときは、貴重なのだ。

中西部から出て来たアンは、詩人として名を成すことを夢みている。今朝も彼女は近作の一篇を、スーザンに読んで聴かせる。聞きながら、外出の仕度をするスーザン。

(ああ、今はそれどころじゃないのよ。今日もあいかわらず結婚式の、ユタや教の堅信札の記念写真なんかを撮らなくちゃならないんだから。まったくサエない仕事だけど、夢の実現より先に、まず生活費よ)

スーザンは、仕事へと飛びだし、残ったアンは自公の才能にも生活にも失望して、恋人のマーティンと結婚しちやおうか、などと思う。帰宅して、アンからそんな決心を打ちあけられた、スーザンの心中は複雑だ。

(やっぱり女ともだちヘガールフレンド)なんて、頼りにならないのよね。今日は親友でも、明日は他人の妻、なんてことがヒョイツと起きるんだもの。まあいいわ。私はひとりやっていく。おとなしいアンは、その方がいい。詩の方だって成功するとは思えないし、どうぞ、おしあわせに……)

けれども、ひとり残されたアパートは、淋しい。アンに見捨てられたような、情ない気持なのだ。

誰れに電話をかけたって、こんな時はみんな先約あり、か、外出中。電気料の滞納で、部屋はまっ暗(こんなのって、ひどすぎる)。スーザンは泣く。わめく。パーティで知りあい、遊んでみた男エリック。彼との、乾いた風みみたいな情事。

やさしさに惹かれて、半分本気になったしまった中年のラビでも、彼の妻やら息子やらを見せしめようという残るものは現実だけ。こちらの方は、にわか雨みたいな恋だった。

自分の作品をかかえて、雑誌社をまわり、ちよつぱり景気のいい先輩の下請け仕事を手伝い、ありったけのエネルギーで頑張るスーザン。彼女のユタや糸の血が、そうさせるのだろうか。

それとも、彼女の若さの故なのか。

でも、ある日突然に、小さな光が見えた。必死で自分の写真売り込む、スーザンの熱意をかった画廊主が、個展を開かせてくれるという。

(やったわ!!)

アンの新婚家庭を訪ねたスーザンは、アンがまだ「昔の夢」を捨てられずにいるのを知る。帰り途、彼女はヒッチハイクの娘シールを拾った。ダンサーになりたいという、この女の子はスカンピンでなまけ者だけれど、新しいルームメイトを得たスーザンは、彼女に寛大だ。

アンは、子供を産んだ。安定した家庭生活も、煩雑で単調な日常のくりかえしとなれば、穏やかなアン的心にも焦りがたまってくる。夫も子供も愛してはいるけれど、一方、スーザンの自由さと情熱が、ひどく羨ましい。

詩人をめざす、という夢は、もう実現不可能なのだろうか。

子供の這いまわる部屋で、ふたたびタイプを打ちはじめのアン。そんなアンをみつめる、マーティンの目にも、かげりがある。

スーザンの部屋を、アンは訪ねた。昔の彼女の变りにシールがいる。

アンには共に暮らし未来を夢みた、スーザンとのあの頃がたまらなく懐かしい。

彼女は元のルームメイト、スーザンに打ちあける。

「又、子供ができるの。でも、もう私産まないわ。」

アンの気持を、スーザンは理解した。結婚したって、生活が安定したって、女ならやっぱり淋しいのだ。

個展の準備。エリックのアパートでのいさかい。あいかわらずさがしいスーザンの胸に、アンの結婚以来ほとんど消滅しかけていた、彼女の友情がよみがえる。

スーザンの個展は、成功するだろうか。

アンの結婚生活は、どこへ行くのだろうか。それぞれに重苦しい問題をかかえながらも、共に女の人生街道を歩きつづけるスーザンとアン。

今日も二人は、女ともだちとしての思いやりとなくさめに満ちた、静かな微笑みを交わし合うのである。

* * * * *

5月下旬ロードショー!

銀座文化・1 (561) 0707

新宿京王地下 (356) 3518

*特別ご鑑賞券 ¥1000 (当日一般 ¥1300 大学 ¥1200 の処) 発売中!

●銀座4丁目・和光うら ●伊勢丹斜め向・三越ならび

連日 10:45 12:30 2:15 4:00 5:45 7:30